

# 色白親子

私は、お母さんゆずりの色白です。夏に学校でプールにしている時、いきなり仲のいい友だち三人に、

「あやちゃんゆうれい。色が白いからゆうれい。」

と笑いながら言われました。私は、いきなり言われたのでびっくりして、何も言えませんでした。いつも色白のことをお母さんから、

「色白美人でかわいいね。」

とやさしく言われるとうれしいけど、友だちから、色が白いからゆうれいとされると、なぜかかなしい気持ちになりました。

次の日に学童で同じ友だちから

「ゆうれいごっこしよう。あやちゃんゆうれいやく。」

と言われて私は、前に言われたときよりかなしくなりました。私は、

「ちがうあそびをしよう。」

と言ったら、

「じゃあ、おにごっこでおにじゃなくてゆうれいがおいかけるごっこをしよう。」  
と言われたので

三宅 礼華

「だれがゆうれいやくなん。」

ときいたら

「あやちゃん。」

と言われました。でも、ちがう遊びにしてもぜったい私がゆうれいになるのでその遊びの輪からぬけました。それから、少しでもやけるようにぼうしをかぶらなかつたり、外で遊ぶようにしたけど、手や足ばかり茶色になって、顔はあまりやけませんでした。

しばらくして、お母さんに友だちからゆうれいと言われたことを言うと、お母さんは、

「ゆうれいと言われるのは、美人と言われているのといっしょだよ。むかしのゆうれいも雪女も色白美人でしょ。お母さんも色白だったから、おばあちゃんから『色白は七難かくす』って言われたんだよ。」

と言ったので聞いてくれました。私は、うれしすぎて、てれてしまいました。それからゆうれいは美人と思うようになりました。その後も、ゆうれいと言われることがあっても、いやな気持ちになりました。

一つの言葉を聞いても、聞く人の考え方によっていいように感じたり、悪く感じたりします。これからは、いやなことを言われても、いいように考えるようにすると気持ちがお楽になることをお母さんに教わりました。物をもらったりするのもうれしいけど、形にはない考え方や思いやりを教えてくれる方が、これからの幸せにつながると思います。幸せになる方法を教えてくれてありがとう。色白のお母さん。

評価のポイント

自分にほこりを持つことを教えるお母さんをきちんと書くことができている。